

☆ 子ども会 (学習会) だより ☆

MY SKY 第20号 ☆ ☆

マイ スカイ

1996年10月29日火曜日発行(毎週火曜日定期発行)

発行 者
板野中学校
学 習 会
編集・文責：吉成正士

秋もだいふ深まってきましたね。今ぐらいの^{きこう}気候になってきますと、静かな深い山に入り、^{あきどり}秋鳥の声を聞きながら、^{もみじ}紅葉がりをしてみたいものです。自然に触れるには一番いい季節かもしれませんよ。

先日、子ども会(学習^{しんぼく})親睦^{しんぼく}バーベキュー大会が総合センター前の広場で、夕方5時から行われました。^{すず}涼しくって、^か蚊もいなくて、秋の銀色に光る月光を^あ浴びながら、たくさんの方々と楽しいひとときを過ごすことができました。日頃参加できていない友達の顔も見ることができ、「こんな^{きかく}企画もいいナア」と感じた次第^{しだい}です。いろんな活動を通じて、たくさんの方々とつながっていくことはいいものです。そんな楽しくなるような企画を、みんなで考え、運営できるようになることも大切です。もしかすると、授業をする勉強よりも大切かもしれませんね。



◎第3回板野中学校同和教育研究大会・2年第3回全体学習2年D組(10月9日・資料「学習会によせる思い」)

ところで、大変遅くなりましたが、第3回の板中同研の報告をしておきたいと思います。当日約100名の参加者を^{まね}招き、大会は始まりました。2年D組の生徒のみなさんから、「学習会によせる思い」の資料をもとにした発言が続いていきます。その中身の多くが、部落差別を中心にした結婚差別について、家族と対話した内容のものでした。

その全体学習についての感想が、いくつがよせられているので、見てみてください。

部落差別がある→^{みもとちようさ}身元調査(聞き^き合わせ)→部落かどうかだけでなく、その家の^{しんせき}宗教や^{けいざいりよく}経済力、^{びやうれき}病歴、^{しんせき}親の出里、^{はんざい}親戚等の犯罪や病歴、全く本人に関係ないことまで調べられ、それによって結婚が^{そがい}阻害される。ということは、地区外の者もそのまま、自分の責任でないことで、愛する相手と結婚できないという事実をきちんと知らせておかないと、^{たにんごと}他人事になってしまうのでは？

親しい友人が、実際に何代も前の先祖に障害者がいたということで、気に入った相

手との結婚ができなかった。その原因も聞き合わせであつたが、誰が見ても申し分ないと思うような人でも、そんなめに合うということで、あらためてこの問題の根の深さを知った。

そのあたりの大人の社会の醜^{みにく}さをもっとぶつけて考えていければとてもいいと思うが……ちょっと難しいかな？

板野東小学校 上田託也

★ ★ ★ ★ ★

年^{ねんきゅう}休をとって、今日はぜひ板野中学校の全体学習を！とやってきました。鴨島東中や阿波中でも、板野中学校全体学習を模倣^{もほう}して研究実践してきましたが、今日のような何でも言える雰囲気^{おどろ}に驚かされました。特に話し言葉で自分の思いをそのまま何も見ずに言えるには、やっぱり学習を積み重ねてきているということと、“学習会に参加している”“僕の母は……”という社会的立場をさらりと言ってのける地区の子どもたちの思いをしっかり受け止めました。

その反対に、地区外の生徒でしょうか。全然話し合いに参加しない人がいたのが、とても悔^{くや}しかった。あんなに仲間づくりを求めているのに、本当は地区外の子がもっともっと、本当の仲間になっていかないかのじゃないですか。

一人の女の子が「この話し合いを続けても……」という意見は、私たちの学級にもあります。この答えが聞きたかった。

最後に、「わいの母やんが誇れる」と言った男の子に、いつまでも幸せな世の中を私たちがつくっていかないかと思いました。乱筆ですみません。 阿波中学校

★ ★ ★ ★ ★

全体学習を参観するのは初めてで、どのような授業展開になるのかが予想がつきませんでした。

今日の2時間目の授業を見て、子どもたちが自分の今の気持ちを正直に答えているのを聞いて、感動しました。本当に一人ひとりが真剣に考え、自分を高めていこうとする姿がとても印象的でした。

私も今年から鶴尾中学校に来て、同和教育の大切さを実感しています。また不安も抱^{いだ}いています。

今日の子どもたちを見て、教師(私自身)の姿勢がどれだけ大切かを学びました。生徒と真正面に向き合ってがんばっていこうと思う気持ちが出てきました。ありがとうございました。

上記に「感動」という言葉を簡単に使ってもらいましたが、3年生の女子の授業に対する意見はその生徒の本当に悩んでどうしたらいいか、前向きに考えている思いに身がつまらされました。勇気のある生徒で、正直な熱い思いのある子どもですね。
乱文で失礼します。 香川県鶴尾中学校

私も結婚問題については、親とのいろんなやりとりがありました。(まだ結婚はしていませんが)そのとき、こんな言葉を投げかけられた記憶があります。

「結婚はお互いが不幸にならんためにも、つりあい(きおく)が大事なんでよ。」

ほなけん、釣り書(よこう)はいるんでよ。ほれは世間(せけんいつぱん)一般(しゃかいいつねん)で言う社会通念(しゃかいつうねん)でよ」

当然、次の瞬間(しゅんかん)、喧嘩(けんか)になっていました。おまけに、こんなことも言われました。

「まだまだ青いな」「おまはん(同和教育に)のめりこんどん違(ちが)うん」

もう5年も前の話ですが、今でも覚えています。それから何度か話し合う機会がありましたが、今では喧嘩にもならず、冷静に話せるようになりましたし、両親もいろんな差別問題を通して、結婚問題を考えているようです。私も両親もまだまだ差別意識がありますが、とにかく差別問題から目を背(そむ)けず、真正面から見つめていくことで、「昨日の自分より今日の自分が好き」と言えるようになればと思っています。

みなさんも、今から家族で結婚問題について話をしていくことで、将来の結婚が少しでもスムーズに運ぶよう、がんばっておきましょう!!



◇ これからの日程 ◇ ◇ ◇

今月の15日に、板野養護学校との交流学習会がありました。今回は板中のボランティアクラブ50名が、板養の友達を本校に招いて活動を行ったのですが、見かけたみなさんどうでしたか?いろんな感想をもったと思います。その感想を、また自分の出発点にして、「障害」者問題を考えてもらえればと思います。

実は先日、4年前の板中の卒業生が、『第23回(さん)筋ジス文化祭』のポスターを持ってきました。今は国立療養所徳島病院(こくりつりょうようしよ)で働いているのですが、ぜひとも見に来てくださいますとのことです。

ところでみなさんは筋ジスということばを聞いたことがあるでしょうか?正式には確(しんこうせいきん)進行性筋ジストロフィーだっと思います。どんな病気かといいますと、体の成長とともに全身の筋肉(ちぢ)が縮こまっていき、「健常(けんじょう)」者よりも早く、その人生を終えねばならないという難病(なんびょう)なのです。しかも、その病気を治す薬(いま)は未だ見つかってはいません。しかしその

短い人生を、当たり前のように懸命に、キラキラと、そして自然に生きています。

私がこの病気を知ったのも、確か中学生の時でした。当時の四国女子大学(現四国大学)の大学祭に遊びに行ったとき、筋ジスについてのパネル展をしてるのに出くわしました。ショックでした。正直「かわいそう」と思いました。目を潤ませながらパネルを眺めたことを、今も記憶しています。そのことが良かったのか悪かったのかはわかりませんが、とにかくショックでした。

今、同和教育を押し進めている一人として、筋ジスのことについてもやはり、考えていきたいと思います。もしよければ、みなさんも文化祭を覗いてみてください。

第23回筋ジス文化祭テーマ『今瞬間(とき)の中で』

と き：11月9日(土)12:00~15:30・10日(日)8:30~15:30

ところ：国立療養所徳島病院筋ジス病棟、鴨島養護学校

内 容：9日→阿波高校、劇、作品展示ほか

10日→読書会、青筍会、アピール、シグナルコンサート

ビンゴ大会、模擬店、作品展示、即売ほか

それともう一つ、紹介しておきたいことがあります。それは『ナヌムの家』という映画です。映画といっても、そこらへんでやっている映画とは違います。徳島大学の大学祭でやっている映画です。内容は、かつて第二次世界大戦時に日本軍によって「従軍慰安婦」にされていた女性たちのドキュメント映画です。解説を紹介しておきたいと思いますので読んでみてください。

ソウル市内鎮路区の一軒家に元「従軍慰安婦」の女性たち6人が、

仏教団体の支援を受けて共同生活をしている。

人々はこの家をナヌムの家(分かち合いの家という意味)と呼んでいる。

映画は日本政府の正式謝罪と補償を求めて毎週水曜日に行っている日本大使館前でのデモに始まる。それに続きナヌムの家で暮らすハルモニ(おばあちゃん)たちが炊事洗濯をし、お喋りをする日常生活が映し出される。騙されて連行されたこと、戦後に受けた差別や苦しみを時にはぶっきらぼうに、時にはぼつりと、つぶやくようにハルモニたちは語り続け、歌い踊る。また、撮影クルーは中国武漢に遺棄され、今もそこで暮らす3人のハルモニのもとへも訪れる。自分の名を覚えていないハルモニもいる。彼女たちがうろ覚えの母国語で語る体験はすさまじいといしか言いようがない。

そしてラストシーンには息をのまされる。そこで観客には〈生〉とは何かという根

源^{げん}的な問いかけが、なされているのではないだろうか。

この映画に声高^{こわだか}な告発^{こくはつ}はない。ピョン・ヨンジュ監督は「彼女たちとの出会いを通じて私が感じたのは、加害者である日本に対する怒りではなかった。彼女たちの顔にはいつもボスニアの女性たちが、そしてベトナム戦争当時韓国軍に陵^{りようじよく}辱^{りやく}されたベトナムの女性たちの顔が重なっていたからである。戦争が起きる度に女性は略^{りやく}奪^{だつ}と暴力の対象になる。このような残酷^{ざんこく}な世界に対する私の怒りは、被写体^{ひしゃたい}となる当事者^{とうじしや}との関係の深さにつながってゆく。ファインダーに写る人々の姿にはいつも希望が芽生えている。そして撮影者と撮影対象者の関係が深くなればなるほど、希望は現実になってゆく。私はそんな映画を作り続けたい」(『山形国際ドキュメンタリー映画祭'95公式プログラム』より)と語っている。

出演者：パク・オンニョン(76歳)

「恥ずかしくてたまらないよ。私たちの生きてきた話を誰にできるっていうんだい？」

出演者：パク・トゥリ(73歳)

「金がなくてもいい。御飯も、金も、何もかも嫌い。この世とおさらばしたいという、たったそれだけなんだ、私の心には……」映画後半部で、得意の歌を熱唱。

かつて第二次世界大戦で、日本は長崎や広島に原子爆弾を落とされました。その被害がいかにかかったかは、修学旅行に行った2・3年生は学習したと思います。でも、その瞬間^{じゆうきよう}の状況^{じゆうきよう}は、いくら学習してもわかることはできません。それを経験した語りべだけが、その当時の状況を伝えるのみです。

ところが私たち日本人は、被害者である前に、大きな加害者であるということにも注目^{ちゅうもく}する必要があります。戦時中日本は、東・東南アジアを含め、多くの国々に甚大^{じんだい}な被害をおよぼしました。特に一般民衆に対する差別的な行為^{こうい}は、ひどいものでした。その筆舌^{ひつぜつ}に尽くしがたいお話を、ドキュメントとして韓国の監督^{かんとく}が映画化^{えいがか}したのです。私もまだ見えてはいませんが、この映画はおそらく、韓国・朝鮮の人々が見るよりも、日本人が見るべきものではないかと思います。なかには「戦争と部落問題学習に何の関係があるのか？」と思う人もいるかもしれません。けど、戦争そのものが人間のもつ差別性のなかから生まれているし、その戦争時に利用されてきたのもまた、差別だったわけです。そういう意味で、この映画は、部落問題と重ねて考えることができるのではないのでしょうか。

というわけで、「ナヌムの家」の券をまとめて注文しようと思います。ご希望の方は、吉成まで申し出ておいてください。

96 徳島大学大学祭「ナヌムの家 アジアで女性として生きるということ」

と き：11月2日(土), 3日(日)開場1:30 上映2:00～

ところ：徳島大学常三島キャンパス 共通教育棟B館

入場料：一般1000円 中・高生600円

× 切：31日(木)お昼まで(あくる日の金曜日に券をお渡しします)

★

★

★

★

★

11月2日(土)・3日(日) 徳島大学大学祭「ナヌムの家」(2:00～：徳島大学常三島キャンパス)

5日(火) 『MY SKY 第21号』発行日

6日(水) 板野郡同和教育研究大会(13:30～：藍住中学校)

7日(木) 1年第4回全体学習1年E組：資料「メガネと補聴器」

9日(土)・10日(日) 第23回筋ジス文化祭(国立療養所徳島病院筋ジス病棟, 島島養護学校)

12日(火) 『MY SKY 第22号』発行日



板野町解放文化展 人権劇
「全体学習その後～僕たちの闘い～」



板野町解放文化展 江嶋修作先生講演会